

筆ポリゴン等のデータを活用した病虫害の総合防除の手法の検証

概要

病虫害の総合防除の取組を推進していくためには、講じた対策の**防除効果や生産性に関するメリットを明らかにすることが重要**であること、また、**近年、筆ポリゴンや営農管理ソフトの更なる活用が期待**され、データを活用した管理のための環境が整いつつあることから、**病虫害の総合防除におけるデータの利活用の在り方について検討・整理**を行うため、本調査事業を実施。

農業者自らが、営農管理ソフト等を活用して総合防除の取組内容を記録し、その効果やコストを農業者自身が検証するために必要なデータ項目を「標準データ入力項目」として設定するなど、**筆ポリゴン等のデータを活用した総合防除の実現に向けた提言**が取りまとめられた。

詳細

背景・目的

背景

- 近年、気候変動等により病虫害のまん延リスクが増加しているとともに、過度に農薬に依存した防除により、病虫害の薬剤抵抗性が発達しており、化学農薬のみに依存した防除体系では、いずれ防除が困難になるおそれ。
- 「みどりの食料システム戦略」においては、2050年までに化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減することが目標。
- このため、環境負荷低減を図りつつ、化学農薬だけに頼らない総合防除の推進が必要。

目的

- 総合防除の推進に資する「データを活用した総合防除」の手法を確立する。

調査実証

取組内容

筆ポリゴンや営農管理ソフトの普及が進み、農業生産の現場でデータを活用できる環境が整いつつあることから、病虫害の総合防除におけるデータの利活用の在り方について議論・整理を行うため、病虫害防除等の有識者で構成する検討会を立ち上げた。

検討会において、農林水産省の実証事業等のデータ等を参考にデータを活用した総合防除のPDCAの考え方を整理するとともに、**筆ポリゴンと病虫害防除データの連携による評価モデル**を例示。また、総合防除のPDCAに必要となるデータ項目について、畑作、水稻、果樹の別に「標準データ入力項目」として設定するなど、営農管理ソフトの活用を前提としながら、**筆ポリゴン等のデータを活用した総合防除の実現に向けた議論**を行い、**提言**を取りまとめ。

成果等

- データを活用した総合防除のPDCAに必要となる「標準データ入力項目」を設定
- 筆ポリゴンと病虫害防除に関するデータを連携することによる評価・活用モデルを例示
- 筆単位で記録したデータを地域で活用する際の留意点や普及に向けた課題等を整理

今後の展開等

- 生産者が筆単位で記録する防除等の記録データを筆ポリゴンと連携させ、地域単位でそれらデータを統合・活用した総合防除の取組を実証する。（例：標準データ入力項目の検証、地域単位でのデータ活用における課題への対応等）
- 筆ポリゴン等のデータを活用して総合防除のコストとメリット等を明確にする優良事例の創出を目指す。

地図表示例

